

Slovenia Monthly

December 2015

vol.1-no.3

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2015年1月7日



～12月の主なポイント～

- 難民問題：**オーストリア政府が対スロベニア国境にてフェンスの設置を開始。
欧州委員会がシェンゲン国境管理のために欧州国境・沿岸警備隊の創設を提案。
- 政治：**同性婚を認める法改正案の国民投票が行われ、反対票多数により同改正案が否決。
ツェラル首相が訪米し、行政システムのデジタル化推進に向け、米企業と覚書を締結。
スロベニア政府がトウルク前大統領を次期国連事務総長候補として正式に擁立を決定。
- 経済：**政府は、NEDOスマートコミュニティ事業の実証事業実施に対する支持を閣議決定。
欧州の国として初めて電気自動車用の充電所が高速道路沿いの26箇所に設置完了。
- 社会：**スキージャンプ世界大会でスロベニアと日本の選手が表彰台を独占。

難民問題

- 7日、オーストリア政府は、シュピールフェルト(シェンティリ近くに位置する対スロベニア国境)にて、フェンスの設置を開始した。これに対し、スロベニア外務省は、本措置はスロベニア政府との連携のもと実施されており、入国地点への難民の誘導を目的とする一時的なものであるため、抗議は行わないとの方針を示した。
- 8日、ツェラル首相は、オーストリア政府によるフェンス設置について、本措置は予測されていたもので、欧州に建てられたすべてのフェンスは、EUが難民問題に対し十分な共通の対応策を打ち出せなかった結果であると発言した。
- 14日、政府が11日よりスロベニア南西部プリモルスカ地方でもフェンス設置を開始したことを受けて、アドリア海に面したスロベニア南西部の観光都市であるピラン市のボスマン市長は、フェンス設置はピラン市に多大な損害を与え、魅力的な観光地のイメージを損なうとして不満を表明した。
- 15日、欧州委員会は、シェンゲン国境管理のために、加盟国政府の要請がなくとも活動できる欧州国境・沿岸警備隊の創設についての提案を行った。
ツェラル首相は、本提案は間違いなく重要な一歩であるとして支持を表明した。他方で同首相は、スロ

ベニア・クロアチア間の国境はEU域外国境ではないため、欧州国境・沿岸警備隊が活動することはできないと述べた。

- 18日、ポチヴァルシェク経済相は、16日までに対クロアチア国境の約136.5キロにわたってフェンスを設置し、その費用として190万ユーロを支出したことを明らかにした。
- 12月31日の時点で10月17日以降合計37万8千604人の難民がスロベニアに入国(12月では9万7千664人)し、10月20日以降合計36万5千790人がオーストリアに出国した。(STA通信、スロベニア警察統計)

政治

【内政】

●内閣改造の可能性に関するツェラル首相の発言【14日】

ツェラル首相は、2015年初旬に閣僚の業績評価を行い、内閣改造を実施する可能性を示唆した。

また、同首相は、経済指標や社会の傾向がポジティブであるにもかかわらず、政府が批判されている現状は正常ではなく、市長、ビジネス関係者、労働組合等による突然の政府批判及び閣僚の辞任要求は、多くの場合で過剰な反応であると述べた。

●国民投票による同性婚合法化法改正案の否決【20日】

20日、同性婚を認める婚姻・家族関係法の改正案に関する国民投票が行われ、同改正案への賛成票が36.5%、反対票が63.5%となり、同改正案は廃止されることとなった。投票率は36.2%で、38万人以上が反対票を投票した。今次投票結果を受け、少なくとも今後1年間は同性婚を認める法改正を行うことができなくなった。

スロベニアに迫る！⑤

スロベニアにおける同性婚の動き

スロベニアでは、2015年3月に、国民議会において婚姻・家族関係法改正案が可決され、同性婚が法律上認められることとなりました。それまでは同性カップルは行政登録のみ認められており、異性間のカップルと同じ権利は享受していませんでしたが、法改正により、婚姻については、性別に関わらず2名による共同生活として再定義され、異性間の婚姻・同棲と同じ法的、経済的、社会的効力が同性カップルにも適用されることとなりました。

しかしながら、カトリック教会系市民団体など保守的な勢力が、同法改正の施行前にこれを廃止するため国民投票の実施を求め、20日に行われた投票の結果、同案は否決されました。

同性婚をめぐるのは、以前2011年制定の家族法で認められましたが、その際にも2012年に実施された国民投票により同法が否決されています。

●スロベニア独立・統合の日記念国家式典【23日】

憲法裁判所長官の主催、大統領、国民議会議長及び政府の共催で独立・統合の日を記念する国家式典が開催され、多くの政府要人、国会議員及び各国外交団長が出席した。

23日はスロベニアの独立を問う国民投票が行われてから25周年にあたり、モゼティッチ憲法裁判所長官は、スピーチの中で19世紀のスロベニアの作家、ツァンカル(Ivan Cankar)の一節を引用しながら、25年前に自分達が望んだ国家を手に入れたかと問いかけた。同長官は、失敗し期待通りの結果が得られないこともあったが、それも自分達の責任であり、国家を持ったからこそその経験である旨述べ、国民投票時に誓った価値観や理念を目指し、推し進めていけば、成功した国家を築くことができると信じていると締めくくった。

【外政】

●ツェラル首相の訪米【2～5日】

ツェラル首相は、2日から5日の日程で、ニューヨーク、ボストン、サンフランシスコ及びシアトルを訪問し、ビジネス、工業団体、大学関係者等21名が同行した。今回の訪米では、スロベニアの行政システムのデジタル化推進に向け、協力企業を探すことを目的としており、スロベニア政府は、IBM、マイクロソフト等の大手IT企業及びスタンフォード大学との間で本分野での協力に関する覚書を交わした。

●スロベニア政府によるトゥルク前大統領の次期国連事務総長選挙への正式擁立決定【23日】

スロベニア政府は、トゥルク前大統領を次期国連事務総長候補として正式に擁立することを決定し、外務省は正式な立候補届を国連に提出した。

政府は、プレスリリースにおいて、トゥルク候補はかねてより国際社会から高い評価を得ている有力候補として名前が挙げられており、同氏の当選はスロベニアにとって極めて重要であるとした。

経済

【マクロ経済・統計】

●研究開発(R&D)支出に関する欧州統計局の発表【1日】

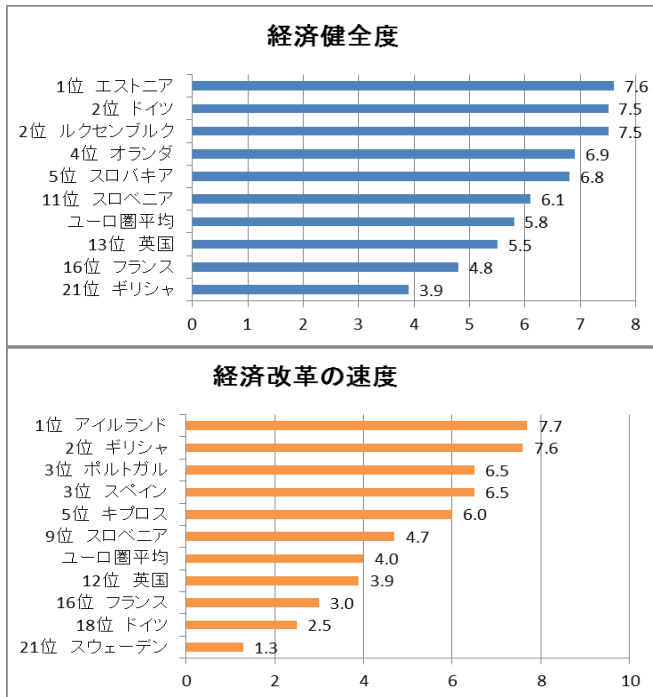
欧州統計局は、2014年度のEU加盟国におけるR&D支出に関する統計データを発表し、スロベニアのR&D支出の対GDP比は2.39%と、EU平均の2.03%を上回る結果となった。

スロベニアにおけるR&D投資の出資元の割合は、民間(64%)、高等教育機関(23%)、政府機関(12%)及び非営利(1%)からとなっている。また、R&D投資全体の中で民間セクター向け投資が占める比率は、スロベニアが77%とEU諸国内で第1位となり、アイルランド(73%)、ハンガリー(72%)、ベルギー及びオーストリア(71%)が続いている。

●スロベニアはユーロ圏で11番目に健全な経済【15日】

ブリュッセルを拠点とするシンクタンクと独銀行により毎年発表される競争力ランキング「ユーロプラスモニター(Euro Plus Monitor)」によると、スロベニアは、「経済健全度」において、ユーロ圏にポーランド、スウェーデン及び英国を加えた21カ国中第11位となった。スロベニアは、本分野で10段階評価中6.1を獲得し、ユーロ圏平均の5.8をわずかに上回った。

また、「経済改革の速度」では、第9位となる4.7の評価を獲得し、こちらもユーロ圏平均の4.0を上回る結果となった。



【金融・企業関係】

●NEDOスマートコミュニティ事業の実証事業実施に関する閣議決定【3日】

スロベニア政府は、NEDOスマートコミュニティ事業(スマートコミュニティ及びスマートネットワーク分野における日本とスロベニアの共同プロジェクト)の実証事業実施を支持することを閣議決定した。本件事業は、両国の企業、スロベニア投資庁(SPIRIT)及びNEDOの協力拡大に基づくものであり、予算規模は約8000万ユーロに上る。実証事業は、2016年前半に開始が予定されている。

●FDI(海外直接投資)サミットの開催【8日】

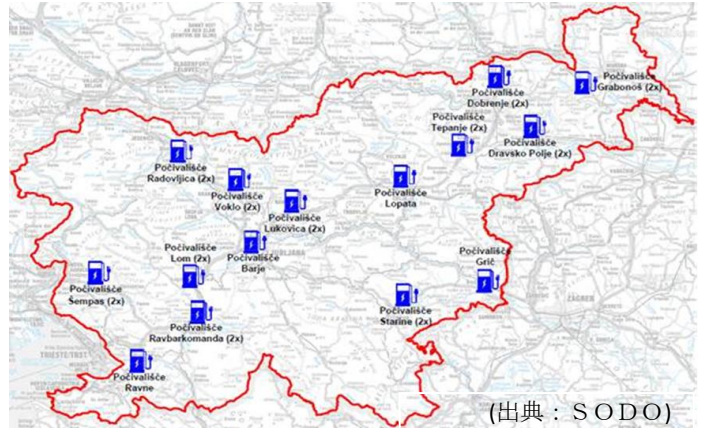
リュブリャナ大学にて、「FDIサミット」が開催され、ツェラル首相をはじめ、政府及びビジネス関係者が出席した。

同首相は、質の高いFDI誘致のために行政障壁の除去、税制及び労働市場の改革を行い、国有企業の民営化を推進することを約束した。

また、外国企業代表からは、スロベニアの企業幹部の悲観論、高い税率、硬直した労働市場、若者の国外への流出、外国の投資家への配慮の欠如、政府の政策の不安定性等の問題について指摘がなされた。

●電気自動車用充電所の設置完了【18日】

国内で設置が予定されていた、電気自動車用の充電所26箇所の設置がすべて完了した。これにより、スロベニアは、すべての高速道路に電気自動車用充電所を設置した欧州で初めての国となった。充電所で80%まで充電するために要する時間は、約30分とされている。



●スロベニア発、今年のアイデア商品【22日】

スロベニアの新興企業は近年勢いを増しており、クラウド・ファンディングにより多くの事業が興っている。

今年最も成功したアイデア商品は、ヤギの角をかたどった、マグカップの「Goat Mug」、折り畳み式電動キックスクーター「Smart Ped」、ジェットモーター内蔵のパドリングボード「Sipa Boards」であった。これらはすべてクラウド・ファンディングで実現した商品で、日本のネット通販サイトでも購入可能である。

Goat Mug: <http://www.goat-story.com/>

Smart Ped:

<https://www.kickstarter.com/projects/flykly/flykly-smart-ped>

Sipa Boards: <http://sipaboards.com/>

●2007～2013年期のEU基金の利用結果【23日】

ガシュペルシッチ・インフラ相は、2007～2013年期中に割当てられたEU基金のうち、98%にあたる9億6000万ユーロの利用に成功したと発表した。EU基金から拠出を受けた事業の総額は20億ユーロにのぼり、主に鉄道や道路などインフラ整備に充てられた。2014～2020年期中では約7億ユーロのEU基金が割り当てられている。

●道路網整備のための新たな道路税の導入【23日】

インフラ省は、国道整備のための財源を確保するため、新たな税の導入を計画していると発表した。

新たな税は「infrastructure cent」と呼ばれるガソリン及びディーゼルに対する課税で、税額は今後3年間で段階的に引き上げられ、2016年には1リットルあたり3セント、2017年には6セント、2018年には9セントとなる予定である。インフラ省は、来年夏に同税の導入を目指している。

社会・文化・スポーツ

●詩人プレシェーレン生誕215周年【3日】

12月3日は、スロベニアで最も偉大な詩人フランツ・プレシェーレンの生誕215周年。これを記念し、当日は60を超える市町村において多くの文化施設が入場無料となり、380を超える各種イベントが催された。この入場無料企画は、2000年にスロベニア文化省がプレシェーレン生誕200周年を記念して始めたもので、数年をかけて国をあげての文化プロジェクトに発展し、多くの人々を魅了している。

スロベニアに迫る！⑥

スロベニアの国民的詩人、プレシェーレン

フランツ・プレシェーレンは、19世紀に活躍したロマン派のスロベニア詩人で、後のスロベニア文学に多大な影響を与え、国民的作家として広く知られています。プレシェーレンの詩は情緒的、叙情的で、愛国心や人間の苦悩、そして片思いの相手であるユリア・プリミッツへの想い等が詠われており、スロベニア国歌も彼の詩です。

旧市街の中心に位置する広場がプレシェーレンの名を冠しているほか、スロベニア芸術界の最高賞はプレシェーレン賞と名付けられており、その功績の偉大さを物語っています。



プレシェーレン広場の銅像

●リュブリャナ市内のレストランが神戸牛を提供【8日】

リュブリャナ市内のステーキハウス「クラリ・ジェラ (Kralj žera)」で神戸牛がレギュラーメニューに加わっ

た。このお店では神戸牛のリブアイ(牛の背中肉で肩ロースとサーロインの中間部位。赤身と脂肪の絶妙なバランス。)が100グラム24ユーロ、テンドーロインが100グラム29ユーロで提供される。

●子供向けウェブ新聞「チャソリス(Časoris)」【15日】

スロベニア初となる子供向けのウェブ新聞「チャソリス」が発行された。本新聞は6歳から12歳の子供を対象とし、政治、科学、スポーツ等幅広いトピックに関する記事を平易な表現を用い、写真や単語の説明付きで掲載している。スロベニアの小学生に加え、海外のスロベニア語学習者にも良い教材となると期待されている。

チャソリス(Časoris): <http://casoris.si/>

●リュブリャナ市がユネスコ文学都市に指定【15日】

首都リュブリャナ市が「ユネスコ文学都市」に指定された。同称号は、文学における豊かな遺産を有し、文化の多様性を育むというユネスコの目標に合致した都市に与えられている。今後リュブリャナ市は多くのイベントを通じ文学面で同市を売り込む計画である。また、同市は国際難民ネットワーク(ICORN)の協力を得て、全世界から迫害された作家を受け入れる施設を提供することも行う。

●スキージャンプ世界大会でスロベニアと日本の選手が表彰台に【19日】

スキージャンプ男子の世界カップがスイスで行われ、スロベニアのペテル・プレウツ選手(兄、23歳)が1位、ドメン・プレウツ選手(弟、16歳)が2位となった。3位には日本の葛西選手(43歳)が入った。世界カップでの兄弟による1位、2位の独占は史上初の快挙。また、プレウツ兄弟の年齢の合計が葛西選手の年齢を下まわったことも話題となった。



(左からドメン・プレウツ選手、ペテル・プレウツ選手、葛西選手
写真: Peter Prevc's Instagram account)

スロベニアに迫る！⑦

独立から25年、社会に対するスロベニア人の評価

スロベニア独立25周年に際し、日刊デロ紙が世論調査を行い、①25年前の独立の決断を「評価する」と答えた人は82%、「評価しない」と答えた人は5%でした。また、②独立後25年経った今のスロベニアについて、「満足している」と回答した人は23%、「満足していない」は45%、「どちらとも言えない」が31%でした。一方、③スロベニアの民主主義の現状については、「満足している」が12%であったのに対し、「満足していない」は52%にのぼり、「どちらとも言えない」は31%でした。

発見！スロベニア

リュブリャナのクリスマスデコレーション

12月、リュブリャナ旧市街は数々のイルミネーションに彩られ、リュブリャナツツァ川沿いにはホットワインやスロベニアの特産品を販売するお店が立ち並び、街はクリスマスムードに包まれました。

クリスマスツリーが街の様々な場所に飾られ、特に旧市街の中心、プレシェーレン広場に位置するチェコから友好の証として提供された大きなツリーは、観光客や街の人々の注目の的でした。

一方、国会に設置されたモダンなクリスマスツリーも現地紙で取り上げられ話題となりました。これはリュブリャナ商業高校でウィンドウデザインを専攻する学生達が、木からポリエステルにいたるまで様々な素材を使い、限られた予算の中で製作した、アイデアの詰まったデコレーションです。



Christmas Photo Gallery



在スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

- スロベニアに90日以上滞在される方は、大使館に在留届を提出願います。
- 本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックが出来ました！

当館のフェイスブックでは、スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせやレポート、スロベニア事情等の情報を随時発信しております。「いいね！」ボタンで当ページのフォローをよろしくお願いします。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

【領事からのお知らせ】

●「たびレジ」に簡易登録機能がつきました！

たびレジとは、いざという時、在外公館などから緊急時情報提供を受けられる外務省の海外旅行登録システムです。

この度このたびレジに簡易登録機能がつきました。メールアドレスと対象国・地域だけを登録することで、実際の渡航の有無やその旅行期間に縛られることなく、継続的に領事メール及び最新海外安全情報メールを受け取ることが可能となります。(ただし、緊急時の安否確認の対象とはなりません。)

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>